

PRESS RELEASE

2018年6月18日

National Center for Global Health and Medicine
国立研究開発法人 国立国際医療研究センター
国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センター

医療ビッグデータを活用した初の国際協力 ～日タイ包括研究協定（MoU）の下で実施される研究概要～

タイ王国は、2002年にUniversal Coverage Scheme（UCスキーム）を開始し、全ての人が、適切な保健医療サービスを支払い可能な費用で受けられる環境が実現しています。国民医療保障機構（National Health Security Office: NHSO）は、人口約75%にあたるUCスキーム加入者、約**4,700万人の医療データ**を所有しているものの、人材やスキルの不足などにより、UCスキームの運営や医療政策提言のためにこのデータが十分活用されてきませんでした。

このたび、国立研究開発法人国立国際医療研究センター(NCGM)国際医療協力局のグローバルヘルス政策研究センター（iGHP）は、NHSOと共に、研究促進基盤の整備や若手研究者の能力強化などに取り組むことになりました。タイの医療政策上重要な3つのテーマに関し、**医療ビッグデータを活用した初の国際協力**となるMoUを締結し、日タイ共同で研究をすることで、UCスキームのより一層効果的かつ効率的な運営に役立てます。

一つの例としては、膨大なバンコクの個人レベルの外来医療データの分析を通して、救急医療へのアクセスを確保し、かつ医療施設への予算配分を効率的に行う方法を提案します。医療費と関連する要因分析も行うことで、適切な診療報酬についても提案します。こうした手法は、今後の日本の医療政策にも大きな示唆を与えるものです。

iGHPグローバルヘルスシステム・イノベーション研究科長

宮田裕章（慶應義塾大学教授）コメント

「タイでは、保健医療データは全て同一のIDで管理されており、様々なデータソースを紐付けて、分析することが可能です。これにより**多くの先進国では困難な、疾病経過の把握と分析が国家単位で可能**となっています。日タイの医療ビッグデータを活用した共同研究は世界でも初の試みであり、**日本や他の国々における次世代の保健医療システムを考える上で、極めて高い意義**があります。」

★共同研究の内容に関するお問い合わせ先

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センター（iGHP）

藤田 ^{たかのり}卓仙、李 ^り祥任 TEL：03-6228-0569（直通）